

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801297
法人名	有限会社さつき福寿サービス
事業所名	グループホームさつき
所在地	福岡県福岡市東区奈多三丁目4-16
自己評価作成日	平成24年12月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年1月17日	評価結果確定日	平成25年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設して10年目を迎え、あらためて地域密着の視点を理念に加筆し、重点的に取り組んでいる。また、職員の自己実現や自己研鑽に向け、就業環境・条件の整備や職員意見の表出の機会の拡大、モチベーションの確立や働きやすさ等への積極的な取り組みも確認でき、理念の具現化に結び付けている。外出支援では、個々の身体状況を検討しながら、JRや西鉄バス等を利用し、入居者自身で運賃を精算できるよう支援しながら、水族館や観劇、買い物に出かけている。「料理の日」には、入居者自身がプランニングできるよう支援し、献立作成や食材の選択、レジでの支払い、調理等を担当してもらっている。毎年、毎年、アイデアや工夫を活かし、目標や課題を明確にしながら、事業所全体の活性化に取り組んでいる。これらの取り組みは、広がりやつながりのあるものであり、様々な暮らしの場面においても、細やかな配慮や気づきがあがえ、フットワークの良さや、あきらめない・決め付けない日々の関わりが伝わってくる。広く福祉を捉えながら、社会的な役割を認識し、何気ない日常の中で、心豊かな時間を過ごせるよう取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「周囲の身近な町並みや公園、買物先などに親しみながら地域の人たちと交流を図り、一人の生活者として尊厳をもって生きることを支援する」の方針のもと小規模(定員8名)ならではのきめこまやかな活動に取り組んでいる	理念は目に付きやすい場所に掲示され、日々の業務や会議の中でも理念について話す機会を持っている。これまでの3項目の理念に加え、今年度は、更に地域密着の視点を明確にした項目を加え、重点的に取り組んでいる。また、「さつきの願い」として、「心落ち着くわが家」であるよう、日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員、町内会長、いきいき支援センターとの情報交換の他に、地域自治会の夏祭り参加や近隣の認知症デイサービス事業所との交流、保育園の園外活動による訪問など利用者のプライバシーに配慮し活動している	代表は地域住民でもあり、情報収集や連携を図りやすい。月2回程、近隣のデイサービス事業所に訪問し、ギターの生演奏を聴いたり、カラオケを楽しんでいる。また、近隣の保育園園児たちとの交流では、折り紙教室を開いたり、くす玉を作成して歓迎したり、遊戯の披露や会話を通じて、継続して交流している。近隣団地の公園への散歩や夏祭り参加、見学なども継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症に関する内部研修や日常活動、支援方法の結果報告等を通じて認知症に対する理解を働きかけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の活動報告や利用者のプライバシーに配慮しつつ日々の生活状況を説明し意見交換を行うとともに、外部評価や指導監査の指摘事項等を公開し広く意見を求めている	地域代表、民生委員、公民館館長、近隣デイサービス管理者、地域包括支援センター職員等の参加を得て、運営推進会議を開催している。家族にも開催案内を行っているが、参加を得られていない状況である。運営状況の報告を行い、出席者からの意見や提案を頂きながら、意義のある開催を目指している。	家族への働きかけは継続されており、今後も方策を検討しながらアプローチを行っていく意向である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では市高齢者部の担当者の出席を求め行政の見解を参考にするとともに、生活保護の実地検査では実際のサービス提供の内容を開示し、事業所としての要望や意見を伝えている	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加を得ており、市担当者への案内も行われている。また、ケースワーカーの方との連携や情報共有を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修の場で拘束廃止に関する学習を積んでおり、日常のサービス提供の場面でも生命の危険が予測される場合を除いて拘束をしないという共通認識の下、利用者対応を行っている	言葉や対応による抑制についても、意識を持った関わりとなるよう、会議やカンファレンスを重ねている。また、ドラッグロックについても、医師との情報共有や連携、働きかけを重ねながら、本人本位の支援につなげるべく取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例会議の場で人権尊重の学習を重ねて、社会で見聞される高齢者に対する虐待やいじめ、介護遺棄等について意見交換している		

福岡県 グループホーム さつき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度については研修の時間を設けて、その歴史的経緯、意義、問題点等について理解を深め、実際のサービス提供の場面に反映するように努めている	現在、権利擁護に関する制度を活用している方もおり、成年後見人への運営推進会議開催案内も行われている。研修で取り上げ、制度への理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約書、重要事項説明書、運営規程について契約の際に詳細に説明する他に、緊急時の対応方法や医療機関の支援体制を説明する一方で家族や身元引受人の協力支援についても了解をいただくようにしている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の生活状況については月末に個別のケアプラン実践報告書を送付し家族の理解を得るように努め、外部評価等の機会にアンケートを通じて第三者へ意見表明できるようにしている	日々の様子や行事報告等を伝える「さつきだより」に加え、個別のケアプラン実践報告書が詳細に作成され、情報や方針の共有に積極的に取り組んでいる。家族の来訪する機会も多く、平成25年度は意見交換会の開催も目指しており、家族機能の活用を、認知症ケアに更に生かしていく方針である。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議ではサービス担当者会議の時間に利用者個々の状態把握や支援方法の検討を行い、職員連絡会議では施設備品の購入、休憩時間の確保、社員の福利厚生の上昇等について可能な限り意見交換を行っている	職員の要望に応え、諸会議の開催時間の変更や、衣類乾燥機の購入等が実現している。また、職員の主体性を大切にし、個別支援のアイデア等、日々のケアへの反映が確認できる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	指導的立場の職員は「支援、栄養、レク」の役割により専門的対応を、また一般の職員は利用者の気持ちに沿ったきめ細やかな対応をすることができるように雇用条件や職場環境の向上に努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用の際には資格や経験の有無以上に、福祉に対する熱意と人間性を重視している。また現職員には生計の糧を得る手段としてのみ介護の仕事をつとめるだけでなく福祉に関わることで人間として向上するように日頃から働きかけ、モチベーションの確立や人生設計の構築等についても助言している	職員の採用にあたっては、人間性や熱意、将来へのビジョンを重要視し、単に年齢や性別による排除は行っていない。公休の拡大や夏・冬期賞与の引き上げ、諸会議の開催時間の変更、休憩時間の確保等、就業環境の整備への積極的な取り組みが確認できる。個別支援のアイデアを会議の中で募ったり、備品の購入等も含め、やりがいや主体性の発揮に向けたアプローチが行われている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修の場では高齢者福祉に対する理解を深めるよう働きかけるとともに、職員一人一人が将来歳を重ねて自ら高齢者となったときの人生設計についても年金や住居、介護等に関して予め準備しておくよう助言している	内外の研修や会議、カンファレンス等を通じて、様々な視点から、人権の尊重や啓発に取り組んでいる。権利擁護に関する制度活用や選挙権の行使を支援している。	

福岡県 グループホーム さつき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修には平成23年と24年に各1名ずつ受講し、25年にも受講を予定している。全スタッフが介護の技量が向上し福祉への理解が深まるよう互いに指導し助言し合うような職場作りに努めている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の認知症デイサービス事業所とは音楽会や作品制作の活動を通じて交流を持っている。また運営推進会議にもデイの管理者の出席を求め、通所と居宅のそれぞれのサービスの特性を反映した意見交換を行っている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に先立って利用者本人とも可能な限り面会の時間を持ち、その気持ちや要望、好みなどを聴取するようにしている。また本入居の前に体験利用を勧めることでスムーズに共同生活を始められるよう配慮している		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅事業所や医療機関とも情報交換を密にして、等身大の利用者像を把握するように努めるとともに、家族には既往歴や認知症の発症時期等についても尋ねてその要望も大小に関わらず聴き取るようにしている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者本人が不安なく生活できる環境を提供し、次に家族が利用者との適度の距離を置くことで安定した生活を送れるように支援し、さらに認知症の進行とともに将来医療や特養対応になった場合についても適宜助言している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の段階に応じて家事やレク等で出来ることを可能な限り一緒に取り組み、出来たときは誉めて出来ないときは無理強いせず出来るレベルのものを試みる等、利用者との信頼関係を作り上げるようにしている		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン実践報告を常に密にするとともに、スタッフがカバーできない所は積極的に家族へ協力を依頼し、面会等の機会を通じて「家族も一緒になって利用者を支えていく」という意識をもっていただくよう働きかけている		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅時の知り合いや旧友等との交流は大切にし面会希望や書信交換等は積極的に支援している。またスーパーや公園等なじみの場所は可能な限り利用するようにしている	学生時代の旧知の方との書信のやり取りを支援したり、絵馬葉書を用いた年賀状や団扇型の暑中見舞いを家族に送る等、細やかな配慮や工夫を行いながら、関係性の継続を支援している。	

福岡県 グループホーム さつき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	世話好きな人、依頼傾向のある人、意思疎通の困難な人、それぞれの性格を見極めた上で、節度ある人間関係の中で、支えあい助け合う良好な間合いを保ちつつ、一方で過度の干渉や依存がないように配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退居に際しては相手医療機関に詳細に情報を伝達するとともに、家族や後見人と連絡を取り合い可能な限り相談や助言に関わるようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	高齢者特有の遠慮の中にも秘めている悩みや心配事、家族への要望等は、その瞬間の思いを敏感に汲み取り出来るだけ意思疎通を図りながら、心安らかに日々過ごせるよう支援している	表出される言葉だけでなく、様々な視点から個別の思いや意向の把握に努めている。家族の協力も得ながら、これまでの人生を理解できるよう、職員間での共有に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居に至るまでの経緯は利用者本人や家族の他に、居宅や医療機関からも詳細に聴き取りを行うことで、在宅や既往のサービス利用の生活からグループホームの共同生活へと円滑に移行できるよう支援している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その有する能力に応じて出来ることを見極め、出来ることには積極的に取り組む一方で、それだけを固定的に墨守するのではなく、様々な他の方法も試みて新たな潜在的能力を引き出すことにも取り組んでいる		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、後見人へはケアプラン実践報告書を送付し面会や介護更新に際して要望を聴き取る一方で、利用者本人には率直に些細なことでも「こうしたい」「こうしたくない」という思いを傾聴するようにしている。	独自の様式を用い、職員意見や医療的なケアを盛り込みながら、介護計画を作成している。特に、「昼間」「夜間」「健康」に分けて、毎月、課題分析や評価を詳細に実施しており、現状の確認や見直しにつなげている。また、ケアプラン実践報告書を作成し、家族や成年後見人との共通理解を図っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルには日々のケア記録を記載し、要注意ケースは生活日誌に再録するとともに、ケアプラン実践報告書を職員間で回覧し、気づきや提言をもとにより良いサービス内容となるよう協力体制を取っている		

福岡県 グループホーム さつき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常的に行っている家事や手伝い、軽作業以外に、戸外活動として公共交通機関を使った買物やレク活動、買物の立案から調理までの「料理の日」、近隣の認知症デイの音楽会参加等多面的に支援に取り組んでいる		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なじみのあるスーパーでの買物や自然豊かな遊歩道など、生活の一部として常に親しみを覚えている施設や環境を積極的に活用し、認知症を持ちながらも心安らぐ落ち着いた生活を送ることが出来るように支援している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による月2回の往診では内科的な診察を中心に認知症や他科の受診についても指示を受けている。既往歴に照らして既存のかかりつけ医が適当な場合は主治医の指示により受診等で対応している	入居時に、かかりつけ医について確認している。複数の医療機関との連携や往診体制の確立、訪問歯科や専門医への受診等、適切な医療を受けられるよう支援している。医師との情報共有や連携を活かし、積極的な働きかけを行いながら、入居者本位の暮らしの継続に向けた支援に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職のない代わりに全職員で利用者個々の健康状態や服薬内容について情報共有を密にし、身体状況の変化は大小に関わらず主治医に逐一上申し、緊急の際は管理者が受診対応を行っている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症専門医療機関とは相談担当者で日常的に連絡を取り合い、入院に際しては生活上の問題点、医療面でのニーズ、本人・家族の要望等を詳細に情報伝達して、円滑に治療体制に入れるよう支援している		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	認知症が重度化したり終末期が予測される場合は早めに利用者本人や家族、後見人等と話し合いの場を持ち、施設で出来ること出来ないことを率直に開示し、医療機関を含めて様々な選択肢を検討する中で最善の方法を検討するようにしている	入居時の説明や意向確認、また、状況の変化に伴い、話し合いを重ねながら、方針の共有に努めている。本人、家族の意向や状態、医師の判断等を踏まえ、最善の方法を本人本位に検討している。これまでに看取りを行った事例もある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法について研修の場で高齢者特有の症状を初め一般的な急変事態を想定して臨機応変に対応できるよう実践学習している		

福岡県 グループホーム さつき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、避難訓練では特に夜間を想定した模擬訓練を消防署の立会いのもと実施し、自動火災報知器と火災通報設備の操作方法をマニュアルにしたがって訓練している	火災時対応マニュアルを整備し、年2回、夜間を想定した訓練を実施している。運営推進会議での検討を行い、近隣住民の参加・協力を得た経緯もあった。消防署のアドバイスを受けながら、建築構造の変更やスプリンクラーの設置が行われている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や家族関係を十分把握した上で、その人なりのプライドと自己有能感を尊重しつつ、親しみの感じられる言葉かけや思いやりに配慮する一方で、過度の「お客様待遇」にならないように注意している。	個別の生活習慣やペースを尊重しながら、生活リズムの確立を意識した支援が行われている。また、入浴時や排泄ケア、着替えの際や整容面での配慮等、プライバシーの確保に向けた細やかな支援が行われている。個別の状況を鑑み、衣料の充実に向けた支援も行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人には加齢による身体や病気の心配、家族との関係等、気持ちを率直に出しやすいように配慮している。また誕生日には欲しいプレゼントの要望を直接尋ねて「自分で決めること」を大切にしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活時間は守りながらも、その時々々の体調や気分に応じて、利用者本人の要望に合わせて買物や散歩、レク等の様々な活動を行っている		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族提供の衣類の他に誕生プレゼントの衣類等から、その季節その場所にふさわしい服装を利用者本人とスタッフで選び、行事や外出の際はおしゃれな装いとお化粧で華やいだ雰囲気を楽しめるように演出している		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その能力に応じて野菜の下処理や調理の一部等に食べるだけの食事ではなく「参加する食事」になるよう配慮している。また利用者本人が献立から買物、調理までに関わる「料理の日」も定期的の実施している	職員として栄養士が配置され、栄養バランス等に配慮された食事を提供している。また、視覚からも食事を楽しむよう工夫されている。職員の提案からはじまった「料理の日」では、入居者個々の役割分担のもと、献立作成や買い物の際はレジでの支払いも行ってもらい、調理にも参加してもらっている。誕生日や家族との連携による外食の機会も確保し、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した魚・野菜重視の献立により、熱量・塩分・糖分・水分等の管理を行うとともに、食べ物の嗜好の他に摂食機能や制限食餌等に配慮しつつ楽しい食事になるように柔軟に対応している		

福岡県 グループホーム さつき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアとスタッフによるチェックを徹底して行い、夜間は義歯を預かりポリドント液で消毒を毎日行っている。また歯科医師による義歯調整や口腔リハビリ指導を適宜取り入れている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	規則正しい生活と気持ちの安定が良好な排泄生理のもとになるとの認識から、タイミングに合った事細かな言葉かけやトイレ誘導を行い、ストレスの少ない日常生活が送れるように支援している	現状としては自立されている方が多く、日中は布パンツを着用し、個別の声かけやトイレ誘導を基本としている。排泄ケアを重視し、細やかな視点と配慮のもと、支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全員の便通パターンを普段から把握し、便秘気味の場合は処方薬以外に牛乳や繊維質の摂取、軽い運動等でスムーズに排泄できるよう働きかけ、緩下剤が効きすぎる時は主治医に上申し与薬中止等適宜対応している		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な生活習慣を守るために入浴は決められた時間に提供しているが、トイレ失敗したときは個別に入浴対応し、また暑い季節に外出から帰った時等にシャワー浴を施行する場合もある	「さつき温泉ポイントカード」を作成し、入浴時に温泉マークのシールを貼り、入浴の確認や楽しみの一つとして工夫されている。週3回程度の基本的な目安は設定しているが、希望や状況、体調等に応じて、柔軟に支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝は認知症に有効との調査結果により、昼食後は各自休憩の時間としている。また体調が思わしくない場合は無理せずに居室へ誘導しベッド臥床し安静にするように促している		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬はその内容や期限を個別のバイタル表に記載して全スタッフが服薬について現状を把握するようにしており、薬の現効果についても主治医に積極的に上申し、より適した処方となるよう支援している		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の手伝いでも根菜の笹がき、キャベツの千切り、モヤシの根取り、きのこ裂き、とレベルに応じて様々な役割を設定し自分なりに何らかの役割を果たし自己有能感を実感できるよう配慮している		

福岡県 グループホーム さつき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭の草取りや花の手入れ等の戸外軽作業の他に、敷地内のウォーキング、足を伸ばして散歩や買い物手伝い等、出来るだけ利用者の要望に添うように外出支援を行っている。また家族には短時間でも面会や外出をお願いしている	季候や希望に応じて、ホーム前の広い駐車場や近くのコンビニエンスストア、近隣の団地内にある公園、少し足を伸ばして海岸まで等、積極的な外出支援が行われている。また、家族との連携も活かし、西鉄バスやJRを利用し、買い物や水族館にも出かけたり、外食等の機会も確保している。外出支援方法の具体策について、研修が実施されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「手持ちの小遣いがないと不安」という利用者には家族の了解の下、財布にいくらかの現金を入れて買物したり、バスや電車で外出する機会を設けて自ら行き先に応じた切符を買い求め釣銭を受取る等の社会体験をしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人と電話で話したり、旧友と書信のやり取りをしたりすることで現社会の一員であることを認識し、生きる張り合いになるように支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やリビング、食堂等の共用空間は利用者制作の壁紙やクラフト、工作物を展示したり飾ったりして季節感や生活感を演出し、自ら生活環境を作り上げるための役割分担を実感してもらうようにしている	二階建ての日本家屋の一階部分を生活空間とし、過ごしやすさや、暮らしの活性化への工夫が随所から感じられる。着座が楽なように新たに入れ替えられたソファや、廊下にもベンチが設置され、くつろぎの場所も確保されている。家庭的な、暮らしの営みを感じられる共用空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	クラフト活動や家事作業の際は気の合った利用者同士、またレベルの近い利用者同士が同席する等配慮している		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やテレビ、机などを備えて着ける部屋となるように利用者や家族に働きかける一方で、衛生管理の面から過度の荷物や家財を持ち込まないようお願いしている	既存の建物を利用していることから、居室の配置や間取りはそれぞれ異なり、使い慣れた家具やテレビ等が持ち込まれている。押入れを利用し環境整備を行い、ベッドの配置や動線の確保等にも個別の配慮がうかがえる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示は大きな文字で見やすくして引き戸からアコーディオンに取り替え、リビングのソファは腰の負担が少ないタイプに交換した。また制作した作品は視線の高さや照明を考えて展示している		